

## 独立行政法人造幣局が平成27年度に達成すべき目標

### I. 政策体系における法人の位置付けおよび役割（ミッション）

通貨は経済活動・国民生活の基盤であり、「通貨に対する信頼の維持」は「財務省設置法」（平成11年法律第95号）に定められた財務省の任務の一つである。この任務を果たすため、財務省においては、通貨の流通状況等を適切に把握し、通貨を円滑に供給できるよう製造計画を策定するとともに、通貨の偽造・変造の防止等を通じて通貨制度の適切な運用に万全を期すこととしている。

貨幣は、経済取引の基礎をなし、国民生活に不可欠なものである。独立行政法人造幣局（以下「造幣局」という。）は、「独立行政法人造幣局法」（平成14年第40号）において、通貨制度の安定に寄与することを目的として、貨幣を、財務大臣が指示する製造計画に従って、製造・販売すること等とされており、通貨行政の執行機関として位置付けられている。また、同法において、造幣局は、勲章及び褒章、公共上の見地から必要な金属工芸品の製造、貴金属の品位証明等を行う機関として位置付けられている。

近年、経済活動の国際化も一層進展する中、デジタル技術等が著しく進化することにより、我が国通貨の偽造防止を巡る環境は厳しさを増しており、通貨に対する信頼を維持するための政策は一層重要となっている。このため、造幣局には、世界最高水準の偽造防止技術を活用し、高い品質が均一に保たれるよう徹底した品質・製造工程管理の下で、貨幣を確実に製造することに加え、通貨当局（財務省理財局をいう。以下同じ。）と緊密に連携しながら、次の貨幣の改鋳も見据えた偽造防止技術等に関する調査・研究及び卓越したデザインの検討を推進・強化すること等が求められる。

記念貨幣の販売については、記念貨幣が国家的な記念事業として発行されることにかんがみ、公正・公平な抽選や確実な配送により、広く国民に行き渡るよう注力することが求められる。また、貨幣セットの販売については、新たな貨幣製造技術の開発や顧客層の拡大を図ることにより、国民に対し貨幣製造事業を紹介するとともに、国民の貨幣に対する理解を深めることが求められる。

勲章及び褒章は、天皇の国事行為として、国家又は公共に対し功労のあった国民などに授与されるものである。このため、これまで培ってきた製造技術を駆使しつつ、徹底した品質管理の下で、その榮譽に相応しい製品を確実に製造することが求められる。また、金属工芸品については、高度な技術の下で確実に製造した製品を販売するとともに、新製品の開発等を通じて、偽造防止技術をはじめとする貨幣製造技術の維持・向上に繋げていくことが求められる。

また、貴金属の品位証明等については、業界の自主的な取組等民間における実施状況を確認しつつ、業務を確実に実施することにより、中小零細企業の保護・育成と消費者の安心に寄与することが求められる。

造幣局には、明治4年以来、近代国家としての通貨制度の確立を図り、140年余にわたって果たしてきた役割を今後とも全うするため、貨幣をはじめとする製品を確実にかつ効率的に生産できる体制を維持・改良し、常に事業の継続性を確保するという責務を果たし、我が国の経済の発展と国民生活の安定に一層貢献することが求められている。

以上を踏まえ、「独立行政法人通則法」（平成11年法律第103号）第35条の9に規定する造幣局が達成すべき業務運営に関する平成27年度の目標を以下のとおり定める。

## II. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

### 1. 貨幣製造事業

#### (1) 財務大臣の定める製造計画の確実な達成について

貨幣の製造について、以下の取組を行う。

- ① 費用対効果を勘案した設備投資等を行うことにより、製造体制の合理化、効率化を図るとともに、保守点検を的確に行うことにより、設備を安定的に稼働させることを通じて、財務大臣の定める製造計画を確実に達成する。また、品質及び製造工程管理を徹底し、財務省との契約を確実に履行する。

#### 【指標】

- ・ 設備投資の的確な実施
- ・ 設備の保守点検及び品質管理の的確な実施（参考指標：損率）
- ・ 故障による通常貨幣製造設備（溶解・圧延設備）の停止時間（過去5年平均以下）
- ・ 故障による通常貨幣製造設備（圧穿機、圧印機）の停止件数（参考指標：停止件数）
- ・ 製造計画達成度（100%）
- ・ 納期未達成率（0%）
- ・ 500円貨、100円貨及び10円貨の一貫工業の歩留（過去5年平均以上）
- ・ 返品率（0%）

【重要度：高】貨幣について、財務大臣が指示する製造計画を確実に達成し、貨幣を円滑に供給することは、財務省の重要な任務の一つである通貨に対する信頼を維持するうえで重要な要素であるため。

【優先度：高】貨幣の供給が停滞した場合、経済活動及び国民生活に著しい影響が生じることから、貨幣製造事業を優先的に行う必要があるため。

【難易度：高】高度な偽造防止技術を搭載した貨幣を、高い品質が均一に保たれた状態で大量生産し、財務大臣が指示する製造計画を達成するとともに、

財務省との契約を確実に履行するには、高度な技術力や徹底した品質及び製造工程管理が求められるため。

- ② 貨幣製造計画の変更や災害等不測の事態が生じた際に最善の結果が得られるよう、柔軟な製造体制を確保するとともに、具体的事案の発生時には機動的に対応する。

【指標】

- ・ 製造計画変更への対応に備えた体制の維持
- ・ 具体的事案発生時の的確な対応

- ③ 情報漏えいや紛失・盗難を発生させないことにより、国民や社会の信頼を維持する。

さらに、財務大臣から委託された地金の保管業務を確実に実施する。

【指標】

- ・ 情報漏えい、紛失・盗難発生の有無
- ・ 地金の亡失の有無

(2) 通貨当局との密接な連携等について

貨幣の偽造抵抗力の強化を図るための方策について検討を進めるとともに、デザイン力の強化等に努めることにより、通貨当局と一体となって貨幣に対する国民の信頼の維持・向上に貢献する。また、国家的な記念事業に相応しい記念貨幣の発行に向けて必要な調査・検討を行い、通貨当局に協力する。

国際的な広がりを見せる通貨の偽造に対抗するため、貨幣の流通状況及び貨幣の偽造動向の調査、外国の貨幣関連機関や国際会議への訪問、出席等を通じて、広く通貨全般に関する情報を収集し、通貨当局への的確な情報提供等を行う。

さらに、関連機関から要請があった場合には研修・視察を積極的に受け入れることにより、国際協力に貢献する。

【指標】

- ・ 現在及び将来に向けた偽造抵抗力の強化
- ・ 記念貨幣の発行に向けた通貨当局への協力
- ・ 偽造動向や貨幣全般に係る的確な情報収集・通貨当局への情報提供（参考指標：通貨当局への情報提供件数とその内容、外国の貨幣関連機関や国際会議への訪問・出席回数及び通貨当局への報告件数とその内容、通貨当局の要望に沿ったセキュリティレポートの提出の有無（年1回12月末））
- ・ 国際協力への対応（参考指標：対応回数とその内容）

(3) 国民に対する情報発信について

博物館の展示物やホームページの拡充、工場見学の積極的な受入を通じて、国民に分かりやすく各種情報を提供しつつ、国民の声を聞くことで、造幣局に対する理解や貨幣に対する信頼を深める。

#### 【指標】

- ・ ホームページの充実（参考指標：当年度アクセス数、更新回数）
- ・ 博物館の展示及び特別展示等の充実（参考指標：博物館来場者数、特別展示等の開催・出展回数）
- ・ 国民に対する情報発信の充実（参考指標：依頼のあった出張講演等の実績回数、現金取扱機器の製造業者等との情報交換の実施回数）
- ・ 博物館におけるアンケート結果（５段階評価で平均評価３．５超）
- ・ 工場見学者アンケート結果（５段階評価で平均評価３．５超）

#### （４）偽造抵抗力の強化等に向けた研究開発について

次の貨幣の改鋳をも見据えた研究開発に係る計画を策定し、独自の偽造防止技術の開発、製造技術の高度化、製造工程の効率化等につながる研究を着実に進め、貨幣の偽造抵抗力の強化に貢献する。また、計画の実行に際しては、事前、中間、事後の評価を徹底し、その成果を適切かつ効果的に活用するとともに、必要に応じて特許の出願や学会での報告を行う。

#### 【指標】

- ・ 研究開発計画の策定の有無
- ・ 事前・中間・事後評価の適切な実施及び評価結果の研究開発計画への適切な反映
- ・ 継続案件の年度末評価達成度 A 以上の割合（過去５年平均以上）
- ・ 研究開発活動の成果（終了案件に費やされた費用に達成度に応じた係数を乗じて算定した値の合計が当該費用の合計を上回る）
- ・ 研究開発成果の適切かつ効果的な活用（特許出願、学会での報告）

【重要度：高】貨幣の偽造抵抗力を強化するための研究開発を推進することは、財務省の重要な任務の一つである通貨に対する信頼を維持するうえで重要な要素であるため。

【難易度：高】貨幣への搭載が可能な世界最高水準の偽造防止技術等の開発を目指した研究を行い、成果を得るには、高度な専門知識と分析能力の発揮や、蓄積された知見の有効活用が最大限になされることが求められるため。

#### （５）外国貨幣等の受注、製造について

偽造防止技術を中心とした貨幣の製造技術やデザイン力等の維持・向上、将来の貨幣仕様の研究開発及び工業化等に係るフィールドテスト、次の貨幣の改鋳に備えた保有設備の有効活用や国際協力を図る観点から、国内貨幣の製造等の業務の遂行に支障のない範囲内で、通貨関係当局等との緊密な連携の下、外国政府等からの貨幣等製造及び製造技術協力の実施に向けて積極的に取り組む。

#### 【指標】

- ・ 外国貨幣等の受注に向けた積極的な取組（参考指標：製造引合に対する入札参加  
・ 見積書提出件数）
- ・ 外国貨幣等の受注（参考指標：受注件数及び受注金額）
- ・ 納品達成度（１００％）

- ・ 製造代金回収率（100%）

## 2. その他の事業

### （1）勲章等及び金属工芸品の製造等について

- ① 勲章等については、製造工程の一層の効率化を図りつつ、過去に授与されたものとの間においても同質性や均一性が確保されるよう、徹底した品質管理の下で確実に製造することにより、内閣府との契約を確実に履行する。

#### 【指標】

- ・ 受注数量製造率（100%）
- ・ 納期未達成率（0%）
- ・ 返品率（0%）
- ・ 情報漏えい、紛失・盗難発生の有無

【重要度：高】天皇の国事行為として授与される勲章等について、内閣府から求められる品質及び納期を遵守して確実に製造することは、栄典制度の重要な要素であるため。

【難易度：高】美麗・尊厳・品格の諸要素を兼ね備えていることが要求される勲章等について、品質が均一に保たれるよう製造し、内閣府との契約を確実に履行するには、細心の注意をもって、熟練した技術を最大限に用いる必要があるため。

- ② 金属工芸品の製造については、貨幣製造技術の維持・向上に資するものとする。また、原則として官公庁等の一般競争入札への参加による受注・製造を行わないことに加え、受注品についても、製品の主旨等を踏まえ、公共性が高い場合に限り製造を行う。

#### 【指標】

- ・ 受注数量製造率（100%）
- ・ 受注品の納期未達成率（0%）
- ・ 返品率（0%）（ただし、企画品については、造幣局の責めに帰さない返品を除く）
- ・ 貨幣製造技術の向上に資する新製品の開発
- ・ 情報漏えい、紛失・盗難発生の有無

### （2）貨幣の販売について

貨幣セット販売業務については、新製品の開発や顧客層の拡大、代金決済手段の多様化等サービス向上を図ることにより、国民のニーズに応えとともに、「公共サービス改革基本方針」（平成24年7月20日閣議決定）に基づく、業務フロー・コスト分析の結果を踏まえ、効率化や民間ノウハウの活用等の観点から、業務について不断の見直しに努める。

また、記念貨幣については、公正・公平な抽選や確実な配送を行うことにより、広く国民に行き渡るよう注力する。

#### 【指標】

- ・顧客満足度アンケート結果（５段階評価で平均評価３．５超）
- ・貨幣製造技術の向上に資する新製品の開発
- ・国民のニーズに的確に対応した貨幣セットの販売（参考指標：製造セット数及び販売セット数（年銘））
- ・公平・公正な販売に向けた適切な取組（参考指標：申込倍率の状況）
- ・サービスの向上に向けた取組
- ・情報漏えい、紛失・盗難発生の有無

#### （３）貴金属の品位証明・地金及び鋳物の分析業務について

貴金属の品位証明業務については、業界の自主的な取組等民間における実施状況を確認しつつ、確実に作業を行うことにより、貨幣製造を通じて培ってきた分析技術を活用したサービスを提供する。また、ロンドン貴金属市場協会（LBMA）が発行した「LBMA Responsible Gold Guidance」に基づく紛争金管理を的確に実施する。

地金及び鋳物の分析業務については、取引において双方の分析が異なる場合に第三者機関として実施する審判分析等を通じ、公共的な役割を果たす。

また、これらの業務を着実に実施し、公益的役割を果たしていくため、品位証明業務及び分析業務に係るアクションプログラムに基づき、受益者に適正な負担を求めること等を通じて、収支相償を達成する。

#### 【指標】

- ・関係団体への実態調査
- ・返却期限達成率（１００％）
- ・貴金属の品位証明業務の積極的な周知及び利便性向上に向けた取組
- ・紛争金対応方針に基づく適切な管理
- ・収支相償の達成（１００％）

### Ⅲ. 業務運営の効率化に関する事項

造幣局は、法人設立以来「固定的な経費」の削減努力を続けてきた結果、平成２６年度の「固定的な経費」は、設立当初に比べて２０％を超える削減を実現し、業務運営の効率化を図ってきた。今後においても、引き続き国民負担を軽減する観点から、効率かつ効果的な業務運営を推進することにより、でき得る限り、製造コストを引き下げる必要がある。

業務の推進に当たっては、行政執行法人として業務を行うことを踏まえ、業務の質を確保しつつ、効率性を高めることに注力し、国民負担の軽減を図ることが求められる。

#### １. 組織体制、業務等の見直し

##### （１）組織の見直しについて

- ① 「国家公務員の総人件費に関する基本方針」（平成２６年７月２５日閣議決定）を踏まえ、業務の質の低下を招かないよう配意しつつ、業務の効率性や業務量等に応

じた適正な人員配置を行いながら組織の効率化に向けて取り組む。

【指標】

- ・ 適正な人員配置
- ・ 組織の効率化（参考指標：期末人員数（フルタイム再任用職員を含む）、人件費）  
※「人件費」とは、毎年度公表している「独立行政法人造幣局の役職員の報酬・給与等について」中の「Ⅲ 総人件費について」における「給与、報酬等支給総額」をいう。以下同じ。

- ② 給与水準について、国家公務員の給与水準も十分考慮し、引き続き、ラスパイレス指数による比較等を行い、適正な水準の維持に向けて取り組むとともに、その状況を公表する。

【指標】

- ・ 適正な給与水準の維持
- ・ 給与水準の公表の有無

（２）業務の効率化について

- ① 平成２７年度においては、広島支局の圧延設備の大規模修繕等に伴い減価償却費等の増加が見込まれるが、国民負担を軽減する観点から、引き続き、可能な限りのコスト削減努力を行うこととし、中期的な観点から設定する平成３１年度末における固定費の削減目標の達成に向けて必要な取組を行う。

また、電子政府推進の取組の一環として、独立行政法人造幣局会計システム（ERPシステム）に係る業務・システム最適化計画（以下「最適化計画」という。）を着実に実行し、業務の効率化を行う。

【指標】

- ・ 業務の効率化の推進（参考指標：売上原価を構成する固定費（東京支局の移転に伴う費用を除く））
- ・ 効率化に向けた業務の見直し
- ・ 最適化計画の確実な実施
- ・ ERPシステムの有効活用による効率化の推進
- ・ ERPシステムに係る保守・運用委託経費削減（平成１９年度比３０，７１２千円以上）
- ・ ERPシステムに係る業務処理時間削減（平成１９年度比２，９３３時間以上）

- ② 調達にかかる契約については、偽造防止の観点に配慮しつつ、原則として一般競争入札その他の競争性、透明性が十分確保される方法によるものとする。また、公正かつ透明な調達手段による適切で、迅速かつ効果的な調達を実現する観点から、造幣局が策定した「調達等合理化計画」に基づく取組を着実に実施するとともに、その実施状況及び契約実績を公表する。

また、物品及び役務の調達に当たっては、「国等による障害者就労施設等からの物

品等の調達等の推進等に関する法律」(平成24年法律第50号)及び「母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法」(平成24年法律第92号)に基づいた調達を行うよう努める。

【指標】

- ・ 調達等合理化計画に基づく適切な契約の実施
- ・ 調達等合理化計画の実施状況及び契約実績の公表の有無
- ・ 契約監視委員会による点検において不適切な契約と認められた契約件数(0件)
- ・ 障害者就労施設等からの調達の実施(参考指標:件数及び金額)

- ③ 「業務フロー・コスト分析に係る手引き」(平成25年8月1日付官民競争入札等監理委員会改訂)に示された手法等により、極めてセキュリティ性の高い製品及び情報を取り扱っていることを踏まえつつ、業務フローやコストの分析を行い、その結果に基づき、民間への業務委託を検討する。

【指標】

- ・ 民間への業務委託の検討

#### IV. 財務内容の改善に関する事項

造幣局は、基幹となる貨幣製造事業が、財務大臣が定める貨幣製造計画によって製造数量が決定され、かつ、納入先が財務省のみに限られているといった特殊性を有することから、自らの裁量や努力によって損益の改善を図ることが難しい側面を有している。しかしながら、そうした制約の下にあっても、業務の重要性に鑑み、将来にわたって安定的に業務運営ができるよう、標準原価計算方式による原価管理に、差異分析結果を適切に反映させること等を通じて、収支を的確に把握しつつ、業務運営の更なる効率化に努め、採算性の確保を図る必要がある。

##### 1. 予算、収支計画及び資金計画の策定、採算性の確保

- ① 業務運営の効率化に関する事項に記載された目標を踏まえた、適切な予算、収支計画及び資金計画を作成するとともに、各項目について、可能な限り歳出等の節減に努める。具体的には、事業別の収支や営業収支率を的確に把握した上で、原価管理の徹底等によるコスト削減を進めることにより、経常収支率を100%以上とする。

【指標】

- ・ 原価管理の徹底等によるコスト削減
- ・ 原価管理等による事業別収支、営業収支率の把握、的確な管理
- ・ 適正な在庫量の維持(参考指標:棚卸資産回転率)
- ・ 経常収支率(100%以上)
- ・ 販売費及び一般管理費(東京支局の移転に伴う費用及び研究開発費を除く)の削減(過去5年平均以下)



- ② 財務内容について、偽造防止の観点や受注条件に影響を及ぼさないよう配慮しつつ、独立行政法人通則法に基づく情報の開示を行うことにより、国民に対する説明責任を果たす。

【指標】

- ・独立行政法人通則法に基づく情報開示（100%）

## V. その他業務運営に関する重要事項

### 1. 内部統制の強化に向けた取組

国民生活の基盤となる貨幣を製造している法人であることを踏まえると、造幣局には強固な内部統制や情報セキュリティが求められる。

#### (1) コンプライアンスについて

コンプライアンスの確保に積極的に取り組むとともに、業務上の不正・不法行為等による重大事象を発生させない。

また、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」（平成13年法律第140号）、「個人情報保護に関する法律」（平成15年法律第57号）及び「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成15年法律第59号）に基づき、確実に対応する。

【指標】

- ・コンプライアンス確保に向けた確実な取組
- ・業務上の不正・不法行為等による重大事象の発生件数（0件）
- ・コンプライアンス違反発生時の的確な対応
- ・情報公開及び個人情報保護への確実な対応

#### (2) 情報セキュリティについて

適切な情報セキュリティ対策を実施し、その状況を定期的に点検することにより、対策の不備による重大リスクを発生させない。

【指標】

- ・情報セキュリティ対策の確実な実施・運営
  - ・情報セキュリティ教育の実施（対計画100%）
  - ・情報セキュリティ対策の不備による重大リスクの発生件数（0件）
  - ・情報セキュリティ対策の不備による重大リスク発生時の的確な対応
- ※「重大リスク」とは、情報システムにおける不正プログラム感染や不正アクセス、又は、その疑いがある場合における情報システムデータの改ざん・破壊、不正コマンド実行、情報漏えい若しくは重要情報の詐取等をいう。

#### (3) リスク管理等について

- ① リスク管理を徹底し、不測の災害が生じた場合にも確実に対応することができるよう、事業継続に係る計画（BCP）を見直すとともに、防災訓練計画を策定し、これらを確実に実施する。

【指標】

- ・ 的確なリスク管理
- ・ BCPの適切な運用
- ・ 防災訓練計画の策定の有無
- ・ 防災訓練の確実な実施（対計画100%）

- ② 品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善するためISO9001の認証を維持するなど、内部統制の強化に向けた必要な取組を行う。

【指標】

- ・ ISO9001の認証の維持
- ・ 目標の連鎖の実施を含む内部統制全般に係る取組状況

## 2. 人事管理

組織運営を安定的に行うため、計画的かつ着実な人材の確保に努めるとともに、適材適所の人事配置に取り組むほか、「独立行政法人等における女性の登用推進について」（平成26年3月28日付閣総第175号・府共第211号）の趣旨を踏まえた女性職員の登用を進める。

また、職員研修に関する計画を策定し、当該計画に沿って、各種研修を実施すること等により、職員の能力の向上や技能の伝承を図る。

【指標】

- ・ 計画的かつ着実な人材確保
- ・ 女性職員の登用等の促進（参考指標：課長相当職以上の職員に占める女性割合）
- ・ 研修計画の策定の有無
- ・ 研修計画の確実な実施（対計画100%）及び職員の能力向上・技能伝承（参考指標：受賞実績）

## 3. 保有資産の見直し

東京支局移転後の跡地については、国庫納付の方法及び時期について検討を進める。なお、移転に当たっては、業務に支障が生じないように、円滑な実施に向けた準備を進める。

また、東京支局の各宿舎については、支局の移転時期を踏まえた廃止、本局の北宿舎の一部及び男子寮、広島支局の西山宿舎については、平成28年度末の廃止に向けた取組を進める。

さらに、その他の保有資産について、効率的な業務運営が担保されるよう、不断の見直しを行い、その結果、遊休資産が生ずる場合には将来の事業再編や運営戦略上必要となるものを除き、国庫への貢献を行う。

【指標】

- ・東京支局移転後の跡地の処分の検討の推進
- ・東京支局各宿舎（北・南・西巣鴨・新座宿舎）の廃止に向けた着実な取組
- ・本局北宿舎の一部・男子寮の廃止に向けた着実な取組
- ・広島支局西山宿舎の廃止に向けた着実な取組
- ・その他の保有資産についての平成27年度以降の廃止等に向けた検討の推進

#### 4. 職場環境の整備

##### (1) 労働安全の保持について

職場環境整備に資する計画を定め、当該計画に沿って安全教育・活動等を行うことにより、安全で働きやすい職場環境を維持する。

###### 【指標】

- ・職場環境整備に資する計画の策定の有無
- ・職場環境整備に資する計画の確実な実施（対計画100%、ただし計画のうち安全教育・活動等に係る項目に限る）
- ・重大な労働災害の発生件数（0件）
- ・労働災害の発生状況
  - ※「重大な労働災害」とは、死亡災害又は一時に3人以上の負傷者を伴う労働災害をいう。

##### (2) 健康管理の充実について

健康管理に資する計画を定め、当該計画に沿って定期健康診断を確実に受診させるとともに、その結果に基づく有所見者への計画的な健康指導・教育などのフォローアップを行うことにより、職員の健康を確保する。また、計画的なメンタルヘルス対策を行うことにより、職員の心身両面の健康管理の充実を図る。

###### 【指標】

- ・健康管理に資する計画の策定の有無
- ・定期健康診断の受診率（100%）
- ・健康管理に資する計画の確実な実施（対計画100%、ただし計画のうち健康指導・教育・メンタルヘルス対策に係る項目に限る）

#### 5. 環境保全

製造事業を営む公的主体として模範となるよう、地球温暖化などの環境問題へ積極的に貢献する観点から、環境保全に関する計画を策定し、当該計画に沿って、効率性に配慮しつつ必要な設備を備えるとともに、環境物品の確実な調達やISO14001認証の維持等を行うことにより、環境保全を図る。

###### 【指標】

- ・環境保全のために必要な設備の的確な導入及び導入時における効率性の検証
- ・環境保全計画の策定の有無
- ・環境保全計画の確実な実施（対計画100%）
- ・ISO14001認証の維持

- ・エネルギー消費原単位（過去5年平均以下）
- ・廃棄物再利用率（過去5年平均以上）
- ・回収貨幣の再利用（100%）
- ・返り材の再利用（100%）

## VI. 中期的な観点から参考となるべき事項

### 1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

#### （1）設備の維持・管理について

中長期的な視点に立って的確な投資を計画的に実行し、将来にわたって各種製品を確実かつ効率的に製造するため、平成27年度から平成31年度までの5年間において、必要な設備投資額として299億円を見込む。

#### （2）偽造抵抗力の強化等に向けた研究開発について

中長期的な視点に立って計画的に研究開発を着実に実施し、貨幣の偽造抵抗力の強化に貢献するため、平成27年度から平成31年度までの5年間において、必要な研究開発投資額として34億円を見込む。

### 2. 業務運営の効率化に関する事項

#### （1）組織体制の効率化について

業務運営に必要な人員については、「独立行政法人整理合理化計画」（平成19年12月24日閣議決定）において、平成17年度末から平成22年度末までの5年間で10%を上回る削減を行うよう求められたところ、平成23年度以降においても削減努力を継続した結果、平成17年度末から平成26年度末までの9年間の実績は23.6%の減少となり、当該閣議決定で示された水準を上回るペースで削減を進めてきた。平成27年度から平成31年度までの5年間においては、これまでの成果を踏まえ、将来の安定的な業務運営に支障が生じないように、平成31年度末の常勤役職員の総数を平成26年度末以下とするとともに、平成31年度の人件費を平成26年度以下とする。

#### （2）業務の効率化について

法人設立以来、必要な設備投資を極力抑えること等により「固定的な経費」の削減を図ってきたが、今後は、次の貨幣の改鋳を見据えた機械設備の導入や製造施設の基盤整備が見込まれること等を踏まえると、中長期的には設備投資に伴う減価償却費の増加が見込まれる。しかしながら、引き続き国民負担を軽減する観点から、平成27年度から平成31年度までの5年間においても、製造コストの抑制に取り組むこととし、平成31年度の売上原価を構成する固定費（東京支局の移転に伴う費用を除く）を平成26年度実績値以下とする。